



2017 J2 順位表 第 21 節

勝点、得点、失点、得失点差、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	福岡	43p	31	16	+15	A●
2	湘南	43p	25	17	+8	A△
3	徳島	36p	34	20	+14	A△
4	長崎	35p	27	23	+4	H△
5	東京V	34p	31	23	+8	A●
6	名古屋	34p	35	30	+5	A△
7	水戸	34p	26	22	+4	HO
8	横浜FC	32p	29	19	+10	H●
9	大分	32p	30	26	+4	H●
10	山形	32p	20	24	-4	H△
11	愛媛	31p	28	28	0	A●
12	松本	30p	27	16	+11	H●
13	千葉	30p	35	32	+3	H●
14	岡山	30p	23	25	-2	A△
15	京都	28p	27	26	+1	A△
16	町田	26p	27	27	0	AO
17	金沢	25p	23	35	-12	HO
18	岐阜	23p	30	33	-3	---
19	熊本	18p	22	35	-13	H●
20	讃岐	13p	19	32	-13	AO
21	山口	13p	18	31	-13	H△
22	群馬	13p	14	41	-27	AO

次回HomeGame

第24節 vs. 町田ゼルビア

7/22 (土) 18:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホムラン TEL. 058-263-5201
名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

Living in Woods
本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel: 058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけ...
心之花が咲く...
何も無い店だけ...
心癒される...
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : **京都サンガ**

2016 J2 18勝15分9敗 勝ち点69: 5位

直近の対決と結果

2017/05/27
J2 - 16節@西京極
京都 1-1 岐阜
小野悠斗 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		京都サンガ	
2017/07/01	J2 - 21節@レベスタ 福岡 1-0 岐阜	2017/07/01	J2 - 21節@西京極 京都 1-0 群馬
2017/06/25	J2 - 20節@長良川 岐阜 4-6 千葉	2017/06/25	J2 - 20節@西京極 京都 1-3 金沢
2017/06/21	天皇杯@鳴門大塚 徳島 0-3 岐阜	2017/06/21	天皇杯@西京極 京都 0-1 沼津

●5/3 (水) 第 11 節・アウェイ群馬戦以来、残念ながら勝利から遠ざかっている FC 岐阜。6/25 (日) 第 20 節・ホーム千葉戦は、攻撃に特色のあるチーム同士、序盤から激しい点の奪い合いとなったが、後半立て続けに失点を許した岐阜が 4-6 で敗れる結果となった。そしてシーズン前半戦最後の試合となる 7/1 (土) 第 21 節・アウェイ福岡戦は、首位・福岡相手に粘り強く戦ったものの、PK を与えてしまい、その 1 点が決勝点となって 0-1 での敗戦となってしまった。

この結果、2017 年シーズンを 5 勝 8 分 8 敗・30 得点 33 失点、勝ち点 23・18 位で折り返した FC 岐阜。今シーズンの順位表を昨年と比してみると、上位 2 チームが突出していること、プレーオフ圏争いが激化していること、あるいは近年上昇傾向だった残留ラインが下がっていること等が挙げられるだろう。FC 岐阜は昨年は前半戦終了時に 13 位だったが、しかし実際には勝ち点 24 でほとんど変わらない (そして、昨シーズンは後半戦で 5 連敗して一気に順位を落としたことも忘れてはいけない)。10 試合未勝利だが、一方で引き分けで勝ち点を積み上げているため、残留争い (21 位・山口) までの勝ち点差は 10 と、油断はできない状況ではあるものの、まだ差がある。また、上位勝ち点 6 差以内に 15 位 (京都)、プレーオフ圏内 (6 位・名古屋) も勝ち点差 11 だ。後半戦で巻き返せる可能性は十分にある。ただし、後半戦は既に今季対戦しているチームが相手のため、これまで以上に大木サッカーを分析して対策をとってくるだろう。これに対抗するためには、やはりチーム全体でシュートの意識やフィニッシュまでの精度を上げることが絶対に必要だ。組織的な守備よりも、ポゼッションを増やして守備の時間を少なくするのが大木サッカーの守備だ。そのためにも、安易なミス無くしてプレーの精度を上げることが重要だ。また、引いて守る相手を攻めあぐるシーンも多く見られたため、守備を崩すためにミドルシュートや緩急織り交ぜた攻撃も増やしていく必要があるだろう。7/21 (金) から 8/18 (金) まで、2017 年の移籍第 2 ウィンドー (登録期間) となり、各チームとも夏の補強が始まる。岐阜の補強選手は未発表だが、新加入選手と従来からの選手とが融合して、更にチームが活性化することも期待したい。

さて、後半戦最初の対戦相手は、現在 15 位の京都サンガ F.C. だ。昨年は 5 位、今年は布部陽功新監督の元で選手も大幅に入れ替わって体制を刷新。11 試合無敗の後に連敗し天皇杯 2 回戦でも敗れたが、前節は群馬に勝利し、調子を取り戻してきているだろう。通算対戦成績では岐阜の 2 勝 4 分 7 敗・9 得点 19 失点と大きく負け越しているが、ホームでは 2 勝 1 分 3 敗・6 得点 9 失点と、ほぼ互角の成績だ。また今シーズン 5/27 (土) 第 16 節では、#23 小野悠斗の J 初ゴールで先制したが #20 伊東俊に移籍後初ゴールを決められ、1-1 での引き分けとなっている。

京都の要注意選手には、まずは #4 田中マルクス闘莉王を挙げなくてはならないだろう。元・日本代表で主将も務めた「闘将」は、攻守ともに空中戦で存在感を見せつけ、チームトップの 8 得点。同様に空中戦に優れた #9 ケヴィン・オリスと、スピードのある #22 小野悠斗がそれぞれ 5 得点だ。そして、チーム 27 得点のうち 12 得点をセットプレーで奪っている京都では、その供給源である #30 石櫃洋祐にも注意しなくてはならないだろう。京都は中心選手の #5 吉野恭平が出場停止だが、一方の岐阜も京都からレンタル移籍している #28 永島悠史が契約上出場できないため、その代替選手の活躍に期待したい。また、京都は #26 磐瀬剛のレンタル元でもあり、#15 田森大己や #16 福村貴幸そして大木武監督にとっても古巣のチームだ。いつも以上に熱い試合となることだろう。なかなか勝てない試合が続いているが、ここが踏ん張りどころだ。今節は後半戦最初のホーム戦。気持ちを切り替えて、今節こそ、ホーム長良川競技場で勝利したい。そのためにも、僕ら岐阜サポーターも最後まで勝利を諦めず、拍手と声援を送って選手たちの背中を後押ししよう。そして今節こそ、2ヶ月ぶりとなる『万歳四唱』で選手たちと勝利の喜びを分かち合い、後半戦巻き返しの狼煙を上げようじゃないか。(ささたく)

「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩 3 分。休: 月曜日

投稿募集 !!
gidaidohri@gmail.com

【第20節】岐阜4-6千葉

●サポの仲間内では『手法は異なれども、攻撃特化型の岐阜と千葉が試合するんだから、ロースコアとか、そんな試合で終わる訳がない』との下馬評が高かった一戦。換言すれば『派手な殴り合い』覚悟、あるいは『どっちが多く点を獲るか勝負』となるであろう試合。よく言われるのは『馬鹿試合』。そしてそれは本当に、実現した…（苦笑）。

試合序盤はさすがに（笑）少し様子見の雰囲気もあったが、#17 大本祐槻が相手DFのボールを搔きさらってゴールを奪ってからはオープンな展開に。ただ、前半は岐阜が若干押してたかなと思うんだけど、振り返ってみると、#11 古橋亨梧が2点目を入れた直後、追加タイムで守りきれずに#50 指宿洋史に同点にされたのが、結果として大きかったと思う。そして、得点の際に指宿が負傷して後半から交代したことも。指宿と#9 ラリベイはプレースタイルが異なりボールを収めるタイプで、立て続けに失点したのも痛かった。ただ、試合の終盤には明らかに千葉の選手たちの足が止まり、岐阜が一方向的に押す展開になったんだけど、残念ながら決定力の差、個人の技術の差が…（溜息）。あと数点は獲れた、つまり同点あるいは逆転も出来たんじゃないだろうかって思うんだけど、まあ、今までも決定力が不足してるから勝ちきれない、あるいは失点して負けてしまう試合が続いている訳ですからね。4-6、つまり両チーム計10得点はJ2最多得点試合タイの記録だそうで…んで、その前の記録は2013年のガンバとウチの試合（2-8）ですってね（苦笑）。

とはいえ、約2ヶ月間勝てない苦しい状況が続く中で、試合終了後もチャントを歌い続けて選手たちを迎え、鼓舞したゴール裏のサポーターたち。この想いは、絶対にチームに届いていると思う。「明けぬ夜はない」そう信じて、これからも応援し続けますよ！（ささたく）

●昨季のこの対戦もゲーフラ・デーだったんですねえ。山形戦といい、偶然是重なるもんなんですね。昨季同様、選手入場の時の雰囲気はよかった。ああ、それなのに、それなのに。そりゃあね、6点取られたら負けですよ。ただ、その場合のスコアは0-6か、1-6。だから、この結果は受け入れる。逆に、ウチに4点取られた千葉が論外なんじゃないか、と。リードしてるのに前がかりだった……とかいうワケじゃない。リードしてからも、古橋を始めとして判で押したように蹂躪されてた千葉の左サイドもたいがいだ。だが、しょせん、それはヨソ様のこと。正直、どうでもいい。

ウチの守備は、結局ビクトルに神になってもらうしかないんだな。もしかしたらやらかすかも？とっていた相手のミスで先制しながら追いつかれ、それでも、45+1で勝ち越しゴール。しかし、それを45+2で追いつかれるか？2点取った直後のキックオフはよく覚えてないけど、いったん下げたボールを右サイドに出されて、それを拾われてワンタッチでマイナスに入れられてダイレクト・ボレー。いや〜、美しかった。確かに、ワンタッチばかりでカラダが動かなかったのかもしれない。それはわかる。だが、右サイドに入れられたボールに反応してなかったよね。ゴールラインを割るだろー、ぐらいに思ってなかった？アレって、長崎戦の幻の5失点目と同じでしょ？でも、敗因がソレなら、まだ救われた。問題は、後半キックオフから投入された千葉のFW。彼のポストプレーが実に効いた。ウチの守備は基本2人。そのうちの一人がポストをケアしたら残るは一人。で、ヘニキが行けば残るのはアベちゃん。ビクトルの前に広がる無限のスペースをアベちゃん一人で埋められるハズもなく……。そりゃ、ビクトルも怒るわ、呆れるわ。でも、アベちゃんにソコを求めるのが無理難題。負けるべくして負けた。4点も取って負けたんなら仕方ない。そう思えるんならヨカッタんだけどね……。そうじゃないんだよな。

ウチも6点取れそうだった。試合終了までそんな雰囲気が出来た。だけど、7点取られる可能性は十二分にあった。あ、

なんか目眩がしてきたゾ（苦笑）。今季もまた、残留争いか？秋田サン、頑張っ！沼津と鹿児島も応援しなきゃだ。しかし、エンタなんとかとしてはおもしろかったんじゃないかな？今季、いろんな面で変貌を遂げたJ2各クラブ。その中でも異彩を放つ「変態ポゼッション（岐阜）vs 変態ハイライン（千葉）」の一戦は後者の勝ち。いや〜、いろんな得点シーンが披露されたね。得点パターンの見本市だったよ。

いろいろ考えさせられる試合だった。次節は首位福岡とのアウェイ戦。千葉より強力なFWがいる福岡相手にどう修正するのか？どう戦うのか？必見だ。ぜひとも見に行かねば！（くん）

●前半を2-2で終えた時、観戦仲間と「これは5-5もあり得る」という話をしていた。後半に6ゴールが入ったことは的中だったが……。まあ、0-2での負けも4-6での負けも「得失点差マイナス2の勝ち点0」だから同じ、得点が多い分だけ4-6の方が収穫あり、ではある。けどね。守備が機能していないことの形容に『スッカスカ』という表現があるが、この試合においては両軍ともその表現に対して失礼だ。敢えて言うなら『ペラッペラ』。なんか「装甲の薄さ」を競っている、ようにも見えた。お互い、5ミリ鉄板の装甲しかない高速機動戦車で派手に撃ち合った戦車戦。しかし戦術には差があった。負傷交代との説があるが、後半開始からの千葉の指宿→ラリベイの交替。積極的に狙っていくタイプの指宿（その良さが顕れたのは前半終了間際の2点目だったが）から、ポストプレーを得意として周囲を活かすラリベイへ。これで、ボールを奪って縦にラリベイへパス→ラリベイがポスト→ヘニキがラリベイに喰いつく→2列目からの飛び出しへの対応は阿部ちゃんのみ→抜き去られる、という「Eテレ『サッカー教室』で教材に使えるような縦の崩し」を何度も視ることになった。

監督が試合後に「6点奪われたけれど4点奪ったからよかった」と話していたのには、正直言って「(ポカーン)」という印象は拭い去れない。リーグ公式サイトにも「6点奪われたら7点奪わないと勝てないのだが」と話しているのが載っている。サッカーで6点奪われるって、基本的には守備大崩壊の大決壊。それを問題視しないということは、FC岐阜のサッカーがそれを問題視しない構造になっている、と解釈できる。「失点が多い？そんなことはわかっている。もっと得点を奪えばいいんだ」という。

しかし、現在の大木・岐阜は「得点を奪う」より「ボールを奪われない」サッカーを志向しているようにも見える。両SBも中盤の底も守備の負担を軽くしているの、守備とは『守備をしないで済む』こと、つまり「相手ボールにしない」。もし奪われた時は、CBとGKでなんとかして。そりゃビクトルも気の毒だ。この試合が終わって、自分のグローブとスパイクをスタンドのファンに渡した時は、もしかして『ちょっと今からサッカークラブやめてくる』だったらどうしよう、とビクビクしてしまった。

問題は、失点の多さをカバーする得点の多さ、に至っていないこと。今季のFC岐阜のサッカーの特徴である「パスの多さ」が、アタッキング・ゾーンで見られない。これはDAZN中継でほとんどの解説者が話していることだ。もっと、相手陣内でパスをつなげれば……。でも、実際にそれが出来てゴールにつながったのって、アウェー・岡山戦の難波の同点ゴールくらいじゃないだろうか。

大木監督は甲府時代のインタビューで「お客さんに『面白かったな、また来ような』と思ってもらえないのなら、それはプロじゃない」と言っている。たしかに『面白いサッカー』は重要な要素だ。でも、お客さんが「また来ような」と思う重要な要素の一つに『好きなチームが勝つところが視たい』があることは、無視しちゃいけない。（吉田 Casting）

【第21節】福岡 1-0 岐阜

●点差以上に内容で完敗。終始相手にゲームの主導権を握られっぱなしで、今シーズン一番ワクワク感を感じられなかったゲームでした。ウェリントンのPKの場面は、上手くファールを誘われてしまった。

シシーニョのあの行為。主審も副審も第四審判も見落としていたので全くお咎めなかったけれど、(おそらく試合後審判アセッサーに指摘されたことだとは思いますが)しっかり見られていたら間違いなく一発赤紙。マークに付いていた岩下に挑発されまくりだったんだろうけど、カッコさせた時点で岩下の勝ち。役者が一枚上だったかな。

あとはジウシシーニョの元気な姿を見られたのが、個人的には嬉しかった。

これで前半戦終了。評価の分かれるところではあるけれど、しっかり課題を修正して、仕切り直して後半戦に臨んでもらいたい。また夏のマーケットでの確かな補強ができるかもポイントになってくると思う。

(岐阜の誇り)

●試合前後のシシーニョのエピソードは微笑ましかった。試合前の選手紹介で、シシが呼ばれた時、スタンドから拍手が起きたというのも感慨深い。これで、シシと城後が同じピッチに立つことが出来れば言うことなし。そんな試合になるのを期待していたんですが、願いははかなわず。スタメンが発表された時にはビックリしたけど、翼はよくやってた……と思います。久々の先発、しかもCbの相方はアベちゃん。試合で組むのは初めてのハズですが、無難にこなせたかな？という印象。もしかすると、これは最終試験か？と勘ぐっててもみましたが、とりあえずクリア、かな？

しかし、肝心の試合は完敗。ほとんど、何もできなかった印象。スタッフでは現地での印象以上にシュートを撃ってはいたけど、決定機だったのはキョーゴが放った前後半の1本ずつ。ミドルが枠をわずかに外れたのと岩下にブロックされたヤツ。このスタイルを貫く限り、攻めたらゴールを決めること。ポゼッションはあくまで手段。ボールをキープして後ろで様子を見てサイドを替える。それはいい。やみくもに中央突破を狙う必要もない。ただ、シュートに対して慎重になりすぎるくらいがあるように思うがどうだろう。先日の天皇杯3点目のようなこともある。シュートを撃とう！そんな感じで、得点の匂いは福岡にしかなかった。この試合も、ビクトルが3点ぐらい防いでくれた。福岡はギアを上げることなく、エコなプレーで圧倒……とまではいかないまでも、首位と残留圏内の差を見せつけてきました。サブ含めたメンバーがとても豪華。戦術的交代も可能な陣容。うらやましい限りだ。

さて、福岡戦で一巡した今季リーグ戦。前半戦の戦績は5勝8分8敗の勝ち点23。クラブ、スタッフの思惑は知る由もないけど、残留というのが自分の目標。そのために必要な勝ち点はリーグ戦の試合数=42と想定。その半分以上は稼いだので及第点……としたいんだけどね。もちろん、根拠ナシの勝手な皮算用。残留ラインが上がるか、下がるかは神のみぞ知るところ。ただね、後半戦も同じペースで行けばいい。そしたら、同じような勝ち点が積める。なんて、そんな単純にはいかないんじゃないか？今季は、これまでのイメージからの脱却というか、スタイル、戦術に変化があるJ2各クラブ。そんな中でも異彩を放ち、対戦相手を刮目させてきた我がFC岐阜。しかし、だ。リーグ戦は5/3以来勝ってない。勝てそうな試合も2つ3つ落とした。どんなに珍しいスタイルでも、研究されてしまえば意のままにならない。そもそも、ポゼッションで圧倒しても守備は2枚のCBとビクトルしかない我が軍は、例え一度でも相手にボールを渡してしまうとイッキにピンチに陥ってしまう。

千葉戦がいい例だ。アレを6点取られたけれども4点取った、というのはちょっとね。4点も取ったのに6点取られた。それは、決してGKの責任ではない。そんなことを言ったら、

あまりにもビクトルが気の毒すぎる。後半戦に向けて、チームの底上げは必要だけど、新戦力補強もそれ以上に不可欠な課題。とりあえず、『強くて、早くて、高いCB』と『強くて、高くて、ポストが出来るFW』も。もちろん、ボールが捌けるのは標準装備な選手をお願いします。例えば、10年前の田中マルクスさんやバレーさんみたいな、ね。(ぐん)

【ユース】G1リーグの結果

●我がFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)はG1リーグに参加しています。6/24(土)に第5節大垣工業戦、7/1(土)に第6節各務原高校戦があり、それぞれ2対0、4対1と連勝をし、現在通算5勝0分1敗の勝点15で2位となっています。第5節終了時点で勝点で並んでいた各務原高校に勝てたのは大きかったですね。

又昨日7/8(土)には第7節長良高校戦があった筈ですが結果はどうだったでしょうか？吉報が届いてる事を祈ってます。この後は7/15(土)に第6節終了時点で首位の中京高との対戦がメドウにて13時キックオフで、7/17(月・祝)には前半ラストとなる第9節岐阜工業戦が中京高校にて12時半キックオフで、と強豪高校との連戦となります。ここが前半の山場です。しっかり勝ち切ってもらいましょう！

トップチームの試合と重なっていませんので、良ければ応援に行ってください。

頑張れよ、応援しているからな！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・日程は変更される場合が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やチームの公式サイトで確認して下さい。

(シュナ)

【セカンド】「全社」出場ならず

●4月に行われた天皇杯県予選で敗れ本大会出場を逃したFC岐阜 Second(以下「セカンド」)ですが、この週末にはもう一つの全国大会である「全国社会人サッカー選手権大会」の東海予選が行われました。

勝ち上がれば「全国地域サッカーチャンピオンズリーグ」への出場権も得られる大会。国体のリハーサル大会でもあるため、今季はお隣の福井開催。セカンドは県予選準優勝で東海予選に参加。7/1(土)に行われた岳南Fモスペリオ(静岡)戦は8-1と攻撃陣が爆発しての勝利でしたが、翌7/2に行われた予選決勝の相手はセカンドと同じ東海リーグ1部で現在3位のChukyo Univ.FC(愛知)。やはり難しい試合になり、0-2で敗れてしまいました。

天皇杯、全社と全国大会への出場を果たせなかったセカンド。残る大会は東海リーグ1部です。現在、7試合未勝利で最下位と苦戦が続いていますが、まだシーズンは半分残っています。なんとか踏ん張って1部に残留してほしいものです。(吉田铸造)

